



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2016.2

No.382

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



若者向け探鳥会「埼玉 Young 探(ヤンタン)」始動!

ヤンタン担当 石塚敬二郎

● 埼玉 Young 探 in 彩湖

2015年12月19日、記念すべき第1回の「埼玉 Young 探鳥会」が、東京・埼玉の“水がめ”としてさいたま市、戸田市などに広がる「彩湖・道満グリーンパーク」で行われました。

初めてこの“ヤンタン”企画を役員会に提案したのが2014年の11月、そこから約1年、関係各位の協力のもと、ようやくこの日を迎える運びとなりました。

舞台は「彩湖」。“海”の無い埼玉において、カムリカイツブリをはじめとする多くの水鳥達を、また周りのアシ原や林ではベニマシコ等の小鳥達、さらにノスリやハヤブサといった猛禽類等を、毎年コンスタントに確認出来る県内有数のバードウォッチングスポット。さらに“Young 探” 本家? 東京支部のご厚意による共催、そして心配した天気も朝から“快晴”と、条件は整いました。

● 130名!

「埼玉」としては初めての試み。本当に人が集まってくれるのか? 主催者側の不安もどく吹く風、集合時間のかかなり前からちらほらとご参加の皆様が集まり始めました。お子様連れのご家族や学生、そして20~30代の若者が中心です。さらに、いつもお顔を拝見している常連の方々と、受付終了時には100名を超す皆様にお集り頂きました! 余談ですが、開催中にも参加者がじわじわと増え続け、正午頃には130名強の受付、これも“若者向け”の特徴でしょうか…。

● ♪鳥くん

今回の目玉、唯一の野鳥専門誌『BIRDER』の取材。そのレポーターとしてプロバードー「♪鳥くん」も参加! さらに光学機器メーカー「興和光学(株)」の協賛も得て、最上機種も含む最新双眼鏡の貸出と、その雰囲気はさながら“お祭り”騒ぎです。

● 大行進

さあスタート、130名。その探鳥の列は長く、リーダー達はいつも以上に気を配ります。

そんな心配もよそに、若者と年長者、東京と埼玉などの参加者同士の交流があちらこちらで見られ、とてもいい雰囲気。途中、水鳥をじっくりと観察。カモ類、カイツブリ類の識別大会が始まります。「ミコアイサのメス!」そして「ミミカイツブリ! (当地での探鳥会初確認)」と、多くの水鳥が浮かぶ中から、識別が難しい種を瞬時に見つけ出します。これも“若者”と言えど、すでにキャリア十分の方や、専門の勉強をされた方も集う“Young 探”の特徴でしょうか。

● 強風注意報

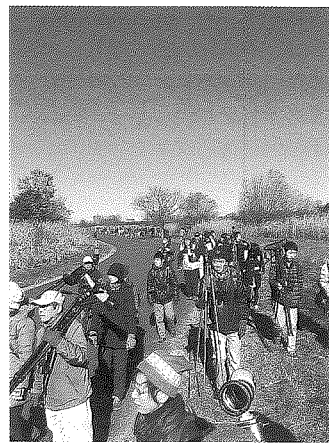
この日の問題は“風”。埼玉県内、「強風注意報」が出されたほどで、こうなると遮るものの無い「彩湖」では当然、鳥の出も悪く、その声も風音にかき消されて…。

そうこうしている内に湖内でウィンドサーフィンをする人まで現れて、環境としては最悪な状態に…。でも、そんな主催者側の心配も無用。参加者同士の“鳥”会話がさらにヒートアップ! 和気あいあいと歩みを進めていきます。

● お昼をはさんで「鳥合せ」

本日の探鳥会担当者は、“Young 探”にふさわしく、「埼玉」久々の20代リーダーH君! まさに“今どき”なトークがその場をさらに盛り上げます。

確認鳥種は、悪条件にも関わらず、なんだかんだと45種! たくさんの目があったからこそその成果でしょう(筆者自身、この日は20種も見えていなかった)。



● じゃんけん大会

まだまだ終わりません！『BIRDER』さんや「コーワ」さんご提供の豪華賞品争奪の“じゃんけん大会”。カレンダー、写真集、そして双眼鏡！…たかが“じゃんけん”、されど…。大盛り上がりです！！

● 終了後も

その興奮も冷めやらぬ面々が残ったの“茶話会”。レジャーシートを敷いて皆さんが持ち寄ったたくさんのお菓子・飲み物を囲んでもうひと盛り上がり。

気がつくとも傾くころの時間に。まだまだ話は尽きませんが、後ろ髪を引かれる思いで“お開き”です。皆さん、一様に笑顔で帰って行く姿がとても印象的でした（その後、有志による“さんずいのとり”会が催された事は言うまでもありません）。

● そして、これから

現在、「埼玉」に限らず全国「日本野鳥の会」会員の年齢構成の割合がたいへん高い位置に偏ってきています。各地で開催されている通常の探鳥会の光景を見ても、その状況は明らか…。皆様方の中には「鳥なんか見ている若者なんか、ほとんどいないんじゃない？ いたとしても、ごくわずかなのでは？」と思われる方も多いと思います。

ただ今回の結果を見ても、けしてそうでもない事はご理解いただけたとおもいます。その割合は、この物があふれる時代そして趣味も多様化した世の中で、決して多いとはいえませんが、“鳥”に関わる“新しい世代”を目の当たりにして、私達の世代が何をしていくべきか…。



最近、鳥が少なくなった

残念ながら合言葉のように使われているこのセリフ…。では10年、20年後…、いや50年後は？ 想像したくもありません。「私達には関係ない」ではなく、その時代を担っていく世代に何を残せるか、そのために今、この次世代の若者達と一緒に何をしていくのかを、皆様方と考えていきたいと思っています。

私自身、野鳥に関わるキャリアも浅く、もちろん専門的な知識もありません。ただ今回のような企画・提案をし、実行していくことで少しでも貢献できれば、とも考えます。

おかげ様で「第1回」を無事終える事が出来ましたが、今後の運営において、まだまだ課題は山積みです。それを一つひとつ解決していきながら、永く続けていくためには、会員お一人お一人のご理解とご助力も不可欠です。引き続きよろしくご願ひ申し上げます。

今後、第2回、第3回へと続き、少しずつでも世代の輪を広げていく事で、将来的には特に“Young探”でもない“ふつうの探鳥会”に老若男女がフツーに集う光景を夢見て…。

(写真撮影 廣田純平)



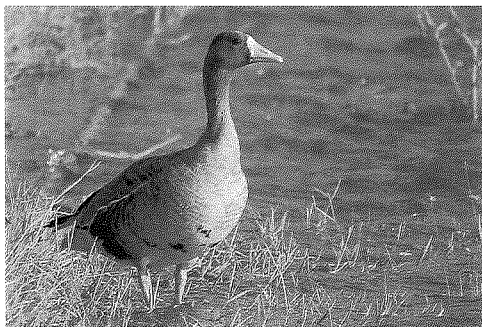


野鳥情報

さいたま市西区・大宮区の鴨川 ◇10月4日夕方、植田谷堰付近の早瀬で交雑ガモ1羽、5月に与野公園他で見かけた個体にそっくり。近くにマガモ♀1羽、カルガモ、コガモ、コサギ、チュウサギなど。上空をキセキレイ1羽が澄んだ鳴き声を響かせ通過。ジシギ類1羽が飛来し、近くの田んぼのひこばえの中へ急降下。10月6日夕方、関沼付近の左岸でコガモ38羽、下流でバン1羽、マガモ♀エクリプス1羽♀1羽など。10月20日、大宮西高グラウンド近くの洲でマガモ3羽、キセキレイ2羽、ハクセキレイ1羽、カワセミ1羽など。マガモは斜め向いの水路の口へ移動し、先客のカルガモ、コガモと入れ替わり、川底から濃緑の藻類を採餌。11月1日、植田谷堰付近でヒドリガモ♂9羽♀7羽、マガモ、カルガモ、コガモ、コサギ、ダイサギ、セグロセキレイ、ハクセキレイなど（大塚純子）。

蓮田市馬込 ◇10月5日午前、エナガ5～10羽、クスノキと柿の木の間を飛び回る（本多喜美子）。10月20日、メジロ10羽とシジュウカラの混群。庭の熟れた柿の実に集合し、うまそうに食す（本多己秀）。

さいたま市南区彩湖北端 ◇10月8日、マガン1羽（三替 淳）。◇同日、岸辺の草むらで草の種を食べるマガン1羽を写真撮影（下写真）。一人で静かに座っていたら、マガンの方から近づいてきた。終認10月12日（海老原美夫）。



北本市北本自然観察公園 ◇10月8日、キビタキ♂1羽、♀1羽、エゾビタキ2羽、コサメビタキ1羽。他にコガモ♀エクリプス、マガモ、カルガモ、カケス、カワセミ、モズ、ガビチョウなど（長嶋宏之）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月9日、ノスリ若鳥がカラス4羽に追われながら通過。10月10日、ツミ♀が桜の枝にとまっていて、目が合った。しばらく見つめあった後、屋敷林の上空に飛び去った。シジュウカラ30～40羽の群れにエナガが数羽混じり、ケヤキの枝を移って行った。10月15日、オオタカ若鳥が5羽のカラスにモビングされたが、振り切って飛び去った。10月21日、小さなタカがカラス1羽と空中戦。小さなタカの反撃が鋭い。大きさからツミ♀の様だった。10月25日、ジョウビタキ♀。今季の初認。ミヤマガラス50羽土が時に帰るハシブトガラスとハシボソガラス計200羽土に混じていた。今季の初認。10月27日、ナンキンハゼの白くなった実を10羽土のハシブトガラスが食べていた（長嶋宏之）。

川口市行衛芝川第一調節池 ◇10月10日、チュウヒ2羽、初認。ミサゴお気に入りの場所で食事、30cm位のブラックバス。他にアリスイ、ノビタキ、ハヤブサ（野口 修）。

さいたま市見沼区膝子 ◇10月12日、ノビタキ2羽。ハクセキレイが何故かしつこくノビタキを追いかけていた。10月26日、ノビタキ3羽、ホオアカ2羽、オオジュリン1羽。遠くの高圧電線にズラッとミヤマガラス100羽+。10月30日、ハシボソガラスを含むミヤマガラス200羽+の群れ。よく見たら中にコクマルガラス約10羽が混じていた。内2羽は淡色型（鈴木紀雄）。◇10月23日午後3時30分頃、膝子の環境センター前の電線でミヤマガラスの群れ120羽土。コクマルガラスも1羽だけ混じていた。ハシボソガラスも少数入っていた（藤原寛治）。

熊谷市大麻生 ◇10月13日、野鳥の森の大麻生駅側入り口付近にアトリ♀タイプ1羽、今季初認（榎本秀和）。

春日部市梅田 ◇10月16日～20日、古利根川の桜の木にツツドリ1羽。10月26日～30日再来し滞在。釣り人やハシボソガラスを横目に、それらがいなくなると盛んに毛虫を食べていた。上流の桜の木と行ったり来たりの様子で、午後2時頃からはお昼寝らしく、川側にヒラリと降りてからは姿なし。夕方は暗くなるまで採餌をしていた。昨年は10月22日、23日に観察。11月16日、隣のマンション手摺にイソヒヨドリ♂1羽、数分後、南へ飛び去る（冨田美邦）。

久喜市久喜喜蒲公園 ◇10月18日、ホシハジロ♂1羽、♀タイプ3羽、コガモ♀エクリプスと♀タイプの合計28羽、ヒドリガモ♀エクリプス1羽と♀タイプ10羽、スズガモ♂1羽、♀3羽、カルガモ。他にダイサギ21羽、カワウ9羽、ゴイサギ若鳥40羽、成鳥5羽。オオバン7羽、カイツブリ1羽など（長嶋宏之）。

さいたま市緑区高畑 ◇10月12日、道路脇の小さな用水でタシギ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月13日、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガモ、キビタキ♂1羽♀2羽、オオルリ♀？数羽など。10月30日、オナガガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ1羽、オオバン、カワセミなど。シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群がにぎやか（鈴木紀雄）。

狭山市入間川 ◇10月24日午前、新富士見橋付近でミサゴ1羽が上流に向かって飛んで行く。新富士見橋～広瀬橋にて、キセキレイが多く見られた（吉田 勉）。

羽生市羽生水郷公園 ◇10月26日、コガモ♀エクリプス、マガモ（換羽中）、ヨシガモ（換羽中）、アオサギ、オオバン、カイツブリ、カワウ、ジョウビタキ♂1羽、ホオジロ、ヒバリ、モズなど。◇11月7日、ノスリが悠々と輪を描き、続いてオオタカが舞ってくれた。近くの梢にモズ。ジョウビタキ♂も。他にツグミ、オオジュリン、セグロセキレイ、カワラヒワ、ヒバリ、ヨシガモ♂5羽、♀7羽、ヒドリガモ、マガモなど（長嶋宏之）。

加須市加須はなさき公園 ◇10月26日、ヒド

リガモ♂2羽、♀3羽、コガモ1羽、カルガモ多数。ミヤマガラス130羽、他にカイツブリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、シジュウカラなど（長嶋宏之）。

吉見町八丁湖 ◇10月26日午前9時30分頃、ツミを初めて見た。コナラの林、1羽の鳥が背中をこちら側に向けてとまった。最初はヒヨドリかなと思ったが、どうも違うようだ。その内、首をこちら側に回す。小さいながら、紛れもなく猛禽類の曲がったクチバシと黄色のアイリングを確認。もしかしてツミ？ 家に帰って図鑑を確認したところ、やはりツミだった。他にマガモ50羽、カルガモ、モズ、スズメ、ハシボソガラス、ハシボソガラスなど（阿部義裕）。

鴻巣市大間一丁目 ◇10月29日、どこからともなくジョウビタキの声。今季初認。11月1日、やっと姿を確認。♂だった（榎本秀和）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月30日、アオジがあちこちに。ジョウビタキ♀1羽、エナガ、オナガ。モズの高鳴き、シメの声、ガビチョウが藪の中で動き回っていた。11月7日、ジョウビタキ♀1羽、アカハラらしき鳥が高速で飛ぶ。ツグミ飛来、シメとアリスイの声など（鈴木紀雄）。◇11月1日午前8時過ぎ、枝にとまったアオバト1羽。朝陽を浴びて黄金色に輝いて見えた。11月6日、元荒川でカルガモに交じってスズガモ♀1羽が潜水を繰り返していた。ここでは初認（内田克二）。

さいたま市桜区白鷺 ◇11月3日夕方、前日の大雨で広くて浅い池となった電建住宅調整池（普段は潤濁）でコガモ7羽。翌日には去る（大塚純子）。

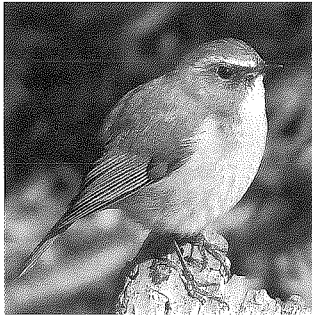
春日部市古利根川 ◇11月4日、ゆりのき橋～藤塚橋で午後2時以降に降りに川の中州に休息中のハマシギ2羽を視認。しばらくして採餌し始めた（石川敏男）。

表紙の写真

スズメ目レンジャク科レンジャク属ヒレンジャク 木の枝わかれ部に溜まった水を争っていました。
鵜飼喜雄(深谷市)



行事案内



ルリビタキ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

(4月からは、中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円になります)

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

戸田市・彩湖探鳥会(平日)

期日：2月4日(木)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:30 発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、赤堀、石塚(敬)、石塚(真)、今村、新部、藤田

見どころ：カンムリカイツブリの「冠」が、そろそろ目立ってきます。ペアになったカモも増えているでしょう。林やアシ原はまだ冬景色でも、あちこちに春の予感。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月6日(土)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き 8:50 発バスで終点下車。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、藤掛、星、水谷、山本

見どころ：年一回開催の運試し！ 毎年、山野の鳥と水辺の鳥を効率よく観察出来ています。今年も赤、青、黄の鳥たちにうまく出会えればラッキー！

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月6日(土)

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用です。駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。

交通：東武東上線川越 7:59 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：菅谷館の雑木林でカラ類、シメ。トラツグミがいることも。都幾川両岸でクサシギ、ベニマシコ、セキレイ4種、猛禽も飛んでくれるでしょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：手塚、赤堀、伊藤、大井、須崎、野口(修)、藤田、若林

見どころ：寒風吹きすさぶ冬の芝川第一調節池は見どころ満載。猛禽類からカモ類、小鳥たち、たくさんの鳥たちが皆様をお待ちしております。

ご注意：途中トイレがありません。天候によってはコースを変更します。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、岡安、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)
見どころ：小鳥が一番見やすい季節です。冬鳥たちも人に慣れたのか、至近距離で観察できます。今年もルリビタキに会えるかな。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(木・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。

担当：青木、赤坂、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、田中、藤原、山田

見どころ：見沼たんぼの探鳥会では一番北側。駅から徒歩で現地まで行けます。初心者の方、ベテランの方、一緒に冬鳥たちを探しましょう。ミヤマガラスやタシギに期待！

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月13日(土)

集合：午前9時25分、森林公園南入口前。
交通：東武東上線・森林公園駅北口から立正大学行きバス 9:05 発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(要年齢を証明できるもの)。
担当：中村(豊)、大坂、岡安、佐久間、鈴木(秀)、内藤、藤掛、藤澤、松下

見どころ：例年になくクイタダキがよく見られています。カラの混群も健在。ルリビタキやビンズイも探します。探鳥会終了後、一般社団法人佐渡生きもの語り研究所による「佐渡のトキに関するセミナー」(希望者のみ。参加費無料)が予定されています。ご希望の方は昼食をご用意ください。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月13日(土)

集合：午前8時35分、岩槻駅前。または、午前9時10分、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線大宮8:19発、または春日部8:17発で岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：長野、石川、内田、榎本(建)、菊川、鈴木(誠)、鈴木(庸)、玉井、長嶋、野村(弘)、藤原、吉安

見どころ：昨年2月にはウソヤルリビタキなどの小鳥類を中心に31種を確認しました。今回はどうでしょうか。トイレが完備された公園内や平坦な元荒川沿いの道をゆっくり歩いて観察しましょう。初心者も大歓迎です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：暖冬の今季ですが、やっと冬鳥も勢揃い。野鳥の森も賑わっていることでしょう。お目当てはルリビタキ？ それともミヤマホオジロ？ 期待が膨らみます。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月14日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、長谷部、水谷、持丸

見どころ：この時期、カンムリカイツブリの群れには早くも夏羽の個体が混じります。冬の盛りにカラフルな夏羽を観ると寒さも忘れずヨ。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月20日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。
交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32 発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：吉原(早)、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、浅見(健)、浅見(徹)、大坂、近藤、柴田、

立岩、永野、廣田、山野

見どころ：人出前の早朝の公園とその周辺で冬鳥を探します。去年の2月はベニマシコ、アオジ、シメなど32種を確認しました。

埼玉 Young 探鳥会 さいたま市・芝川第一調節池

期日：2月20日(土)

集合：午前9時10分、浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。または午前10時、浦和くらしの博物館民家園駐車場。

交通：浦和駅東口バス①番乗場から「浦和美園駅行き」(9:24発)→「念仏橋」(9:43着)下車。

担当：石塚(敬)、石塚(真)、伊藤、小林(み)、佐野、野口(修)、菱沼(一)、廣田

見どころ：お子様連れのご家族、学生、おおむね20～40代の比較的若い方を対象に始めた「Young探鳥会」。その“第2回”は今注目のホットスポット「芝川第一調節池」。水鳥、猛禽類、小鳥達とバランスよく出揃う当地、“ヤングパワー”で確認鳥50種オーバーを目指します！

ご注意：お昼をはさんで13:30頃解散予定(お弁当をご持参ください)。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月20日(土)午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、赤堀、浅見(健)、石塚(敬)、楠見、小菅、小林(み)、柴野、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：見沼田んぼと芝川で、身近な野鳥を観察します。ツグミ、ホオジロ、モズ、ヒバリ。去年は、イカルチドリもいました。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月21日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：持丸、神場、佐久間、志村、鈴木(秀)、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、山口
見どころ：冬も峠を越え、柳瀬川にも春の兆しが見えてくる中で冬鳥を観察します。河川敷の工事昨年未で終了し、野鳥達もゆっくり羽を休めていることでしょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月28日(日)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：去年は9種のカモと7種の猛禽が歓迎してくれました。真冬の利根河原は楽しみ一杯です。人気のベニマシコにもきつと会えるでしょう。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

群馬県館林市・多々良沼探鳥会(要予約)

期日：2月28日(日)

集合：午前8時、大宮駅西口ソニックシティ前。

解散：東武野田線岩槻駅18:30解散予定。途中、JR北鴻巣駅・蓮田駅に立ち寄ります。

交通：往復貸切バス(中型)を利用。

定員：27名(最少催行人数20名)。応募多数の場合、先着順。

申し込み：往復はがきに、住所・氏名・電話番号を明記して、〒344-0007春日部市小淵1062-19入山博まで。2月1日消印から受付開始です。

会費：5,000円の予定(貸切バス代等)。過不足が発生した場合、当日清算。

担当：入山、佐野、近藤

見どころ：多々良沼で水鳥を中心に観察します。初心者の方、大歓迎です。ぜひ参加を。その他：参加者には、後日詳しい案内を発送。



行事報告

8月15日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 34名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ ダイゼン コチドリ メダイチドリ セイタカシギ オオソリハシシギ キアシシギ キョウジョシギ オバシギ トウネン ハマシギ ウミネコ オナガ ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (28種) (番外: ドバト) 干潟の北側にはアオサなどが打ち寄せられ、腐敗して悪臭が漂う。そういう場所にシギ・チドリ類が集まる。また、干潟すれすれにツバメがたくさん飛び交うのは、発生する虫を捕らえているようだ。そういう干潟の原風景の一端を見せてもらった。(杉本秀樹)

8月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 42名 天気: 曇

カルガモ キジバト カワウ チョウゲンボウ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ コムクドリ スズメ カワラヒワ ホオジロ (15種) (番外: ドバト) この季節は鳥が少ないのだが、それにしてもまったく出てくれない。暑さを避けて、用水沿いの木陰道を選んだのが間違いか? 下見ではあちこちで囀っていたホオジロも、セミの声に邪魔されてなかなか見つからない。鳥合わせでかろうじて15種。秋が待ち遠しい。(浅見 徹)

8月23日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 44名 天気: 晴

キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ダイゼン メダイチドリ ミヤコドリ オオソリハシシギ チュウシャクシギ キアシシギ ソリハシシギ キョウジョシギ ミユビシギ トウネン ウミネコ オオセグロカモメ ミサゴ ハシボソガラス ツバメ ヒヨドリ スズメ ハクセキレイ (22種) (番外: ドバト) 潮の関係で午後の開始となった。午前中は杭の上にいるシギ・チドリが

見当たらず、大いにあせった。とりあえず、満潮時の観察ポイントである東側堤防まで行くと、お目当てのミヤコドリやミユビシギが居てくれて一安心。残念なことにアジサシ類は沖合にも見当たらなかったが、食事時のミサゴで救われた。そのうち潮が幾分引いて、現れた干潟にミユビシギやキアシシギが次々に降り立ち、終了間際には間近で観察することができた。(菱沼一充)

8月30日(日) 栃木県松木溪谷-群馬県多々良沼

雨のため中止。

(入山 博)

9月6日(日) 平成27年度リーダー研修会

参加: 33名

埼玉県自然学習センターで開催。日本野鳥の会東京から幹事の石亀明さんが見学のために参加された。午前中は、リーダーとしての心構えについて説明した後、石塚、鈴木両幹事がメインリーダーを務め、2班に分かれて模擬探鳥会を実施した。15種と鳥の種数は少なかったが、最後にミサゴとサシバが見られた。開会前の打合せや終了後の反省会、鳥合わせなども含めて実践形式で行い、終了後にはベテランリーダーからの有益なアドバイスもあった。午後からは新企画であるYoung探鳥会の説明、自己紹介、会の状況と各部からの報告などのプログラムが進み、最後に新リーダーに海老原代表から腕章の授与が行われ、研修会は無事終了した。新リーダーは青山紘一、石塚真理子、今村富士子、近藤龍哉、廣田順平(敬称略)の5名で、今後の活躍が期待される。(長野誠治)

9月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 32名 天気: 曇

コジュケイ キジバト ゴイサギ アオサギ ミサゴ ハイタカ サシバ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ (19種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 土手ではスズメ、ムクドリ、キジバトがいたくらいで鳥は少ない。水路にゴイサギ幼鳥がいたが直ぐ飛んでしまった。ゴルフ場横でシジュウカラ、メジロ、コゲラがエノキの枝の中を動き回り、林を抜けるとタカが飛んできて枝にとまった。ハイタカだった。ゴルフ場裏ではエナガ、ウグイス、花や蝶を観察。後ろの人達はサシバ2

羽が飛んでいるのを見ることができた。荒川上空をミサゴが上流に飛んでいった。鳥合わせの最中にアオサギが飛んでくれた。(千島康幸)

9月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

9月20日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 29名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ イソシギ サシバ ノスリ カワセミ コゲラ ハヤブサ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ (27種) (番外: ドバト、ガビチョウ)

真っ赤な彼岸花を楽しみながらの探鳥会。集合地の川角駅上空を2羽のサシバが旋回。多和田橋のスタート地点では鉄塔で獲物を食べているハヤブサ。幸先の良いスタート。ツバメがまだ飛んでいた。お馴染みのカワセミは2ヶ所で姿を見せてくれた。城山にはノスリ。川沿いの遊歩道整備工事が始まり竹林が伐採されていた。次の探鳥会の3月にはどう変わっているだろうか。(山口芳邦)

9月21~22日(月~火) 長野県白樺峠・乗鞍

参加: 27名 天気: 晴

キジバト カワウ ハリオアマツバメ ハチクマ ツミ ハイタカ サシバ カケス ホシガラス ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクドリ カワガラス オオルリ イワヒバリ カヤクグリ スズメ ニュウナイスズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ (30種) 今回は運が良く、白樺峠に到着してすぐに30羽位のタカ柱を見ることができた。タカ柱が例年より遠く、双眼鏡で見てもタカの姿がゴマ粒位の大きさで、識別するのが難しかったが、絶えず30羽前後のタカ柱を見ることができ、参加者を喜ばせてくれた。2日目は乗鞍へ行った。ライチョウには会えなかったが、ホシガラスをじっくり見ることができた。乗鞍へ

はコマクサ等の高山植物がきれいな時期に再度訪れた方が良いと思った。宿のキノコ料理もおいしく、十分楽しめた2日間だった。(入山 博)

9月23日(水、祝) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 14名

浅見徹、石塚奏、石塚敬二郎、海老原教子、海老原美夫、大塚純子、小貫とみ子、小貫正徳、小林ますみ、小林みどり、柴野耕一郎、廣田純平、藤田敏恵、石井智(担当)

9月23日(水、祝) 松伏町 松伏記念公園

参加: 41名 天気: 晴

キジバト アオサギ ダイサギ チュウサギ コサギ タシギ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ノビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (18種) (番外: ドバト) 地元公民館からの参加者3名も加わり盛況。調整池では、先日の大雨で水鳥がよそに避難したのか1羽もいない。農耕地に移動したが、この目玉であるサギ類の姿が無い。ようやく見つけたノビタキの愛らしさに歓声が上がった。中川の土手道の除草が遅れて通れず、いつもよりショートコースであったが、電線に止まったチョウゲンボウや珍しいカケス、タシギ、まだ残っていたツバメも見られて、それなりに満足して頂けた。(田邊八州雄)

9月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 27名 天気: 雨

カルガモ キジバト カワウ ダイサギ ツツドリ カッコウ ヒメアマツバメ イカルチドリ トビ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ (24種) (番外: ドバト) それほど強い雨ではないので、予定通りにスタート。9月はあまり鳥が多くないうえに雨でさらに少ない感じ。傘をさしながら、なんとなく、元気なくぶらぶらと歩く。河原の鳥たちは早めにあきらめ稲荷山公園へ向かった。このまま終わるのかなと思ったところ、ツツドリ登場。続いてカッコウも。しかも、かなり近くで、じっとして動かない。雨の中参加した人たちも最後は笑顔で帰ることができた。(長谷部謙二)

9月27日(日) タカの渡り調査

ボランティア: 18名

中間平: 鶴飼喜雄、崎尾さやか、桜井正純、柴田和見、竹中義人、田島利夫、長谷部登美子、松野勉、千島康幸(担当)

天覧山: 小林みどり、近藤龍哉、佐野和宏、富田美邦、野口修、藤掛保司、水谷、山岡貞夫、鈴木秀治(担当)

10月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 59名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ バン ミサゴ トビ オオタカ カワセミ アリスイ コゲラ アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ エゾビタキ コサメビタキ スズメ カワラヒワ (29種) (番外: ドバト) エドヒガンザクラから戻る途中の池でカワセミが飛ぶ。頭上にエナガの群れが来たが、逆光で見え難かったのが残念。水場に降りるキビタキを期待したが確認できず。しかしカメラマンは群れでいた。その後、上空を旋回する2羽のミサゴの白さに感動し、ヤマガラがエゴの実を食べるのをじっくり観察でき、満足頂けたのでは。開始前の出現だったオオタカは記録として重要なので、また、釣り堀の奥に止まった鳥はアリスイだったと後で写真で確認できたので出現鳥に追加。(吉原俊雄)

10月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 54名 天気: 晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン ミサゴ オオタカ カワセミ アリスイ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (28種) (番外: ドバト)

第一調節池の周りを巡った。秋の渡りのシーズンでもあり、通過していく鳥たちに期待してコースを進んでいったが……。途中、ミサゴが魚を捕らえて最後まで食べるシーンや、たっぷりカワセミ、チョロっとアリスイ、寂しそうなチョウゲンボウなどなど……。参加者の皆さんにも喜んで頂けたように思う。(伊藤芳晴)

10月11日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

(新井 巖)

10月17日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 20名 天気: 晴

キジ マガン ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシブトガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン ツツドリ ムナグロ シロチドリ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ オオジュリン (44種) (番外: ドバト) 湖畔にムナグロとシロチドリ、湖面にはカモやカイツブリがだいぶ増えてきた。中の島の観察台では、すぐ近くにツツドリが!! 東谷中橋でハヤブサを見てから戻る途中でマガンが出現。ツバメ類も残って居てくれて、いい探鳥会になった。(佐野和宏)

10月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚純子、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆

10月18日(日) 川越市 西川越

参加: 39名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン イカルチドリ トビ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (31種) (番外: ドバト) モズはそこかしこで縄張りを主張。公園内の池にはエクリプスのヒドリガモやマガモ。土手沿いでは上空をチョウゲンボウが舞い、入間川ではイカルチドリ。カワセミはじっくり観察。橋の下ではイワツバメの巣跡を確認。目立ったのが20~30羽のヒヨドリの群れ。何度も目の前を通過。(石塚敬二郎)



● 「なつみずたんぼシンポジウム」で発表

NPO 法人バードリサーチなど主催。1 月 30 日 (土) 10:00~17:00 (受付開始 9:30)、東京大学農学部化学第一講義室 (農学部 2 号館、2 階 227 号室) で開催。午前の部で、当会研究部長小林みどりが、「埼玉県内のなつみずたんぼのシギ・チドリ」につき発表します。詳しくは「なつみずたんぼシンポジウム」で検索を。

● さいたま市緑区環境講演会

2 月 7 日 (日) 14:00~16:00 (開場 13:30)、プラザイースト (バス停「緑区役所入口」近く。緑区中尾 1440-8、TEL 048-875-9933) 多目的ルーム。講演「世界につながる見沼田んぼの野鳥たち」(当会代表: 海老原美夫)。

定員 130 名 (先着順)。入場無料。事前申し込み制。電話、ファックス、はがき、または Eメールで、「環境講演会入場希望」と住所、氏名、電話番号、希望人数を明記して、TEL 048-712-1131 FAX 048-712-1272 〒336-8587 さいたま市緑区中尾 975-1 緑区役所区民生活部コミュニティ課、または midoriku-community@city.saitama.lg.jp へ。

主催: 緑区環境講演会実行委員会
後援: 当会など

● 『BIRDER』の取材 2 件

12 月 19 日 (土) 戸田市彩湖グリーンパークで東京と共催した Young 探鳥会には、「♪鳥くん」こと永井真人さんが、12 月 29 日 (火) 宇和田公園探鳥会には、「ヒヨ吉」こと神戸孝さんがそれぞれ取材に訪れました。

● 会員の普及活動

12 月 5 日 (土) 越生町越辺川で開催された新ハイキングクラブ主催「鳥を観る、知る・第 16 回」で、小林みどり・工藤洋三・星進・藤田敏恵が野鳥観察を指導しました。

12 月 12 日 (土) 金勝山で開催された県立小川げんきプラザ(小川町)主催「陽だまりバードウォッチング」で千島康幸が指導しました。参加者 7 名。

12 月 18 日 (金) 上尾市丸山公園内の自然学習館で開催された自然観察指導員の研修会で、小林みどりが指導しました。

● 会員数は

1 月 5 日現在 1,752 人。

活動と予定

● 11~12 月の活動

11 月 18 日 (水) 武蔵丘陵森林公園地域懇談会 バリアフリー分科会に出席(藤掛保司)。

11 月 30 日 (月) さいたま市大宮区役所で開催された見沼田んぼ新しい交流の場に関する会議に出席(小林みどり、藤掛保司)。

12 月 12 日 (土) 『しらこぼと』1 月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

12 月 20 日 (日) 役員会(司会: 鈴木秀治、行事予定の変更・緑区環境講演会后援・その他)。

12 月 21 日 (月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』1 月号を郵便局から発送(事務局)。

● 2 月の予定

2 月 6 日 (土) 編集部会。普及部会。

2 月 13 日 (土) 3 月号校正(午後 4 時から)。

2 月 20 日 (土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

2 月 21 日 (日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

今年も、カモのカウント調査の時期になりました。会う人毎に「暖冬ですね」の挨拶。冬鳥の数も種類も、これに合わせるかのように少ないように感じます。寒いのは嫌だけれど、冬鳥はたくさん来て欲しい。鳥見人は、わがままです。(浅見)

しらこぼと 2016 年 2 月号 (第 382 号) 定価 200 円 (会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財) 日本野鳥の会会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社